経営比較分析表（平成29年度決算）

岡山県　和気町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	簡易水道事業	C2	非設置

人口（人）	面積(km²)	人口密度(人/km²)
14,452	144.21	100.21

資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m³当たり家庭料金(円)
-	64.55	60.46	2,571

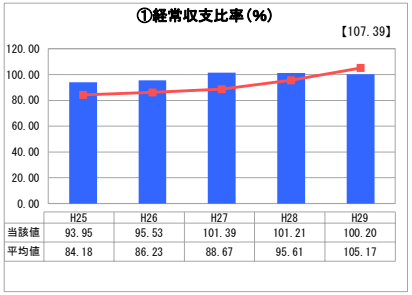
現在給水人口(人)	給水区域面積(km²)	給水人口密度(人/km²)
8,722	27.11	321.73

グラフ凡例
- ■ 当該団体値（当該値）
- ー 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性

①経常収支比率(%)

【107.39】

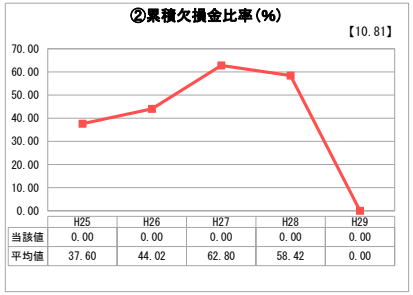


	H25	H26	H27	H28	H29
当該値	93.95	95.53	101.39	101.21	100.20
平均値	84.18	86.23	88.67	95.61	105.17

「経常損益」

②累積欠損金比率(%)

【10.81】

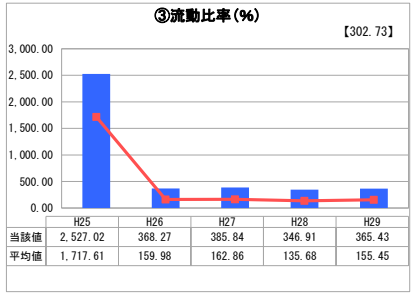


	H25	H26	H27	H28	H29
当該値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
平均値	37.60	44.02	62.80	58.42	0.00

「累積欠損」

③流動比率(%)

【302.73】

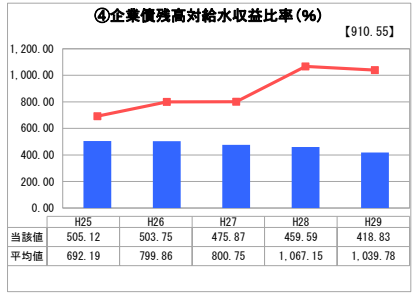


	H25	H26	H27	H28	H29
当該値	2,527.02	368.27	385.84	346.91	365.43
平均値	1,717.61	159.98	162.86	135.68	155.45

「支払能力」

④企業債残高対給水収益比率(%)

【910.55】

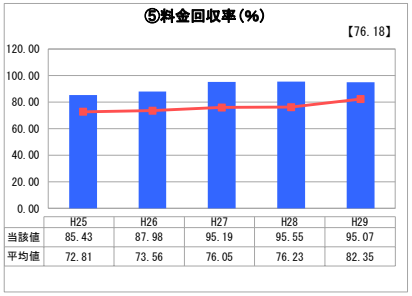


	H25	H26	H27	H28	H29
当該値	505.12	503.75	475.87	459.59	418.83
平均値	692.19	799.86	800.75	1,067.15	1,039.78

「債務残高」

⑤料金回収率(%)

【76.18】

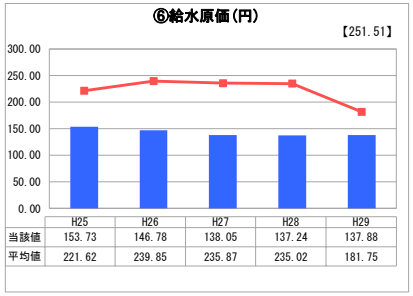


	H25	H26	H27	H28	H29
当該値	85.43	87.98	95.19	95.55	95.07
平均値	72.81	73.56	76.05	76.23	82.35

「料金水準の適切性」

⑥給水原価(円)

【251.51】

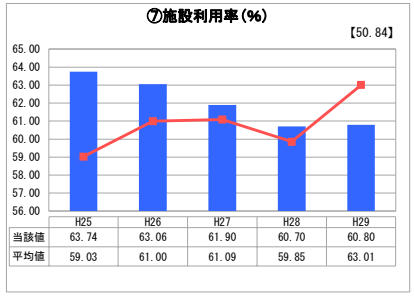


	H25	H26	H27	H28	H29
当該値	153.73	146.78	138.05	137.24	137.88
平均値	221.62	239.85	235.87	235.02	181.75

「費用の効率性」

⑦施設利用率(%)

【50.84】

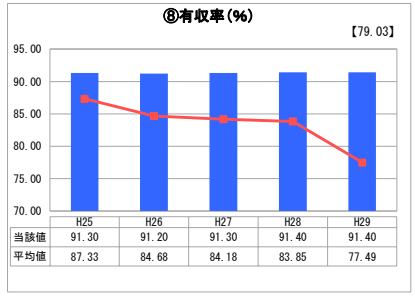


	H25	H26	H27	H28	H29
当該値	63.74	63.06	61.90	60.70	60.80
平均値	59.03	61.00	61.09	59.85	63.01

「施設の効率性」

⑧有収率(%)

【79.03】



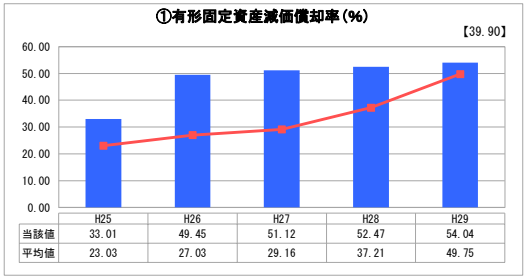
	H25	H26	H27	H28	H29
当該値	91.30	91.20	91.30	91.40	91.40
平均値	87.33	84.68	84.18	83.85	77.49

「供給した配水量の効率性」

2. 老朽化の状況

①有形固定資産減価償却率(%)

【39.90】

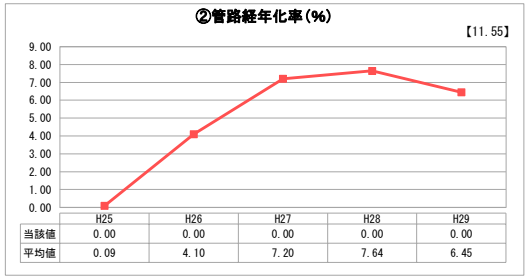


	H25	H26	H27	H28	H29
当該値	33.01	49.45	51.12	52.47	54.04
平均値	23.03	27.03	29.16	37.21	49.75

「施設全体の減価償却の状況」

②管路経年化率(%)

【11.55】

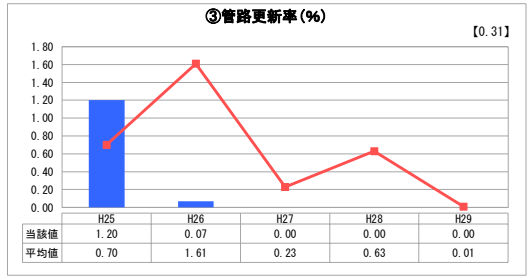


	H25	H26	H27	H28	H29
当該値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
平均値	0.09	4.10	7.20	7.64	6.45

「管路の経年化の状況」

③管路更新率(%)

【0.31】



	H25	H26	H27	H28	H29
当該値	1.20	0.07	0.00	0.00	0.00
平均値	0.70	1.61	0.23	0.63	0.01

「管路の更新投資の実施状況」

※　平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率については、100%を超えているものの、今後の管路更新等の財源確保の為に、一層の経営改善を図っていく必要がある。

流動比率については、平成26年度からの法適用企業への会計制度移行に伴い、大幅に減少しており、類似団体も同様の傾向となっている。

企業債残高対給水収益比率については、大規模な事業がなかったこともあり、類似団体と比べ減少傾向にある。今後は、更新事業等があり、比率の増加が見込れる為、適切な投資に努める。

料金回収率については、類似団体より高い水準ではあるが、給水収益のみでは賄えていないことが分かる。長期的で健全な水道事業の維持の為に、料金収入の確保及び、適切な料金設定を図っていく必要がある。

給水原価については、概ね前年並みで推移しており、類似団体よりも低い水準を維持している。今後も適切な維持管理に努めていく。

施設利用率については、人口減に伴い減少傾向にある。施設の規模等適正化検討する必要がある。

有収率については、類似団体より高い水準を保てており、ロスは比較的少ないと思われる。しかし、より一層の管理に努めたい。

2. 老朽化の状況について

老朽化の状況については、類似団体よりも有形固定資産の減価償却が進んでおり、保有資産が耐用年数に近づいている。

管路更新率については、類似団体より低い水準となっている。計画的に更新を行うことで、適切な維持管理に努めたい。

全体総括

健全な経営に向けて、経費削減や効率的な維持管理に努めるとともに、適切な料金設定を設ける必要がある。また、持続可能な事業である為に、今後は一層耐用年数に近づく資産が増加するので、統廃合など含めて、計画的に更新を行っていかなければならない。